主な資料館等と展示品

■県立むきばんだ史跡公園（弥生の館 むきばんだ）
休 館 日：第4月曜日（祝日の場合は、その直後の休日でない日）、年末年始（12月29日～1月3日）／入館料：無料
住　　所：〒689-3324 西伯郡大山町妻木1115-4
電　　話：0859-37-4000
アクセス：JR淀江駅から車5分
ここで見られる主な文化財：住居跡遺構、復元竪穴住居・高床倉庫、環濠、四隅突出型墳丘墓、復元された道具など

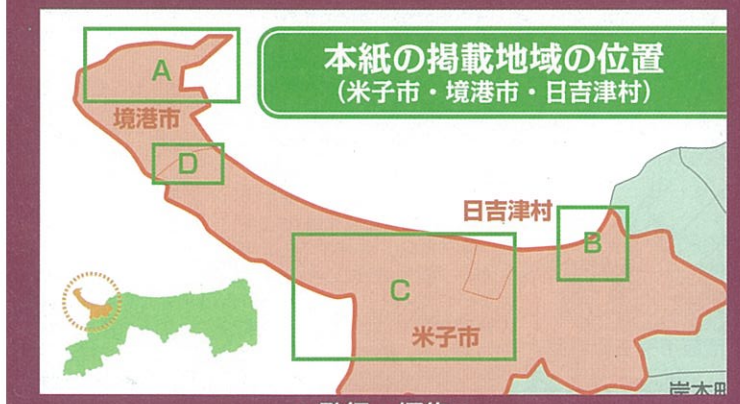
■米子市埋蔵文化財センター
休 館 日：土、日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）／入館料：無料
住　　所：〒683-0011 米子市福市281
電　　話：0859-26-0455
アクセス：JR米子駅からバス20分 安養寺入口下車 徒歩5分
ここで見られる主な文化財：市内発掘調査の成果（出土品）など

■米子市立山陰歴史館
休 館 日：毎週火曜日、年末年始（12月29日～1月3日）、祝日の翌日／入館料：常設展示は無料（特別企画は別途観覧料が必要な場合有り）
住　　所：〒683-0822 米子市中町20
電　　話：0859-22-7161
アクセス：JR米子駅より徒歩10分
ここで見られる主な文化財：米子城関連資料、明治～昭和の民俗資料、市内遺跡出土品など

■福市考古資料館
休 館 日：毎週火曜日、年末年始（12月29日～1月3日）、祝日の翌日／入館料：常設展示は無料（特別企画は別途観覧料が必要な場合有り）
住　　所：〒683-0011 米子市福市461番地20
電　　話：0859-26-3784
アクセス：JR米子駅からバス20分 安養寺入口下車すぐ
ここで見られる主な文化財：復元竪穴住居、人物埴輪（別所1号墳）、土馬（陰田遺跡群）、目久美遺跡・国指定史跡青木遺跡の出土品など

■淀江和傘伝承館
休 館 日：日・月曜日、祝日／入館料：無料（見学は一週間前までに申込が必要）
住　　所：〒689-3402 米子市淀江町淀江796
電　　話：0859-56-6176
アクセス：JR淀江駅より徒歩10分
ここで見られる主な文化財：和傘製作技術、製品

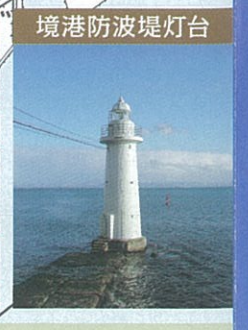
■海とくらしの史料館
休 館 日：火曜日（祝日の場合は翌日）および年末年始（12月31日～1月1日）／入館料：小学生・中学生・高校生・障がいのある方100円、一般400円、幼児 無料
住　　所：〒684-0016 鳥取県境港市花町8-1
電　　話：0859-44-2000
アクセス：JR境港駅からバスで8分、台場公園・海と暮らしの史料館入口 下車



●発行・編集●
鳥取県教育委員会事務局文化財課
平成23年3月発行
〒680-8570 鳥取県鳥取市東町一丁目271番地
電話 0857（26）7937／FAX 0857（26）8128

本書で使用している地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図を複製したものです。（承認番号　平22業複、第480号）
本書で使用している地図の複製品をさらに複製する場合は、国土地理院長の承認が必要です。また、本書の内容を複写し掲載するには鳥取県教育委員会の承諾が必要です。

鳥取藩台場跡 境台場跡


境港防波堤灯台

3 大港神社
航海安全の神社として、古くから祀られている。戦国時代には尼子氏の祈願所となっていた。東側には尼子方の武将亀井能登守安綱などを祀った神社もあったが、大正4年（1915）に合祀され、現在の神社となっている。
JR境港駅より 徒歩5分

4 正福寺
かつて境村（現境港市朝日町）にあった真言宗の寺であったが、天災や戦国期の戦災を受け、江戸時代前期に当地に移され、曹洞宗に改宗された。この寺には「地獄極楽絵」があり、境港市出身の漫画家水木しげる氏が幼少時にこの絵を見たことにより、妖怪の世界へ興味を抱いたと言われている。境内には水木氏の銅像が設置されている。
JR上道駅より 徒歩5分

1 境港防波堤灯台
大正11年（1922）から8ヵ年をかけて実施された境港の修築事業の際に防波堤が新築され、その先端に設置された灯台。灯台外壁を白色モザイクタイル張とする塔型で内部は4層に分かれ、梯子で上下する構造となっている。県内最古の灯台であり、貴重な近代化遺産である。
JR境港駅からバス10分 昭和町下車、徒歩30分

2 鳥取藩台場跡 境台場跡【国指定史跡】
文久3年（1863）に鳥取藩により築かれた。当時弓ヶ浜一帯を管理していた大庄屋の山根作兵衛らの指揮により、地元の農民がのべ4万5千人動員された。砲台の守備には農兵隊が組織された。明治3年（1870）に台場農兵隊廃止と共に台場も使命を終えた。
JR境港駅からバス8分 台場公園・海とくらしの史料館入口下車

淀江傘

撮影者：田中 良子

上淀廃寺跡出土壁画

石馬

5 淀江傘製造技術
【米子市指定無形文化財】
淀江傘の起こりは文政4年（1821）といわれている。傘を干すための広い砂浜があり、材料の竹が入手しやすいことから、この淀江で盛んに行われるようになった。大正時代には西日本一帯に出荷された。現在は淀江傘技術伝承保存会に技術が引き継がれており、インテリア用としての需要も高く、全国に出荷されている。
JR淀江駅より 徒歩10分

6 妻木晩田遺跡【国指定史跡】
弥生時代後半から古墳時代に栄えた集落遺跡。その面積は152haにもおよび、国内最大級の規模をほこる。竪穴住居跡420棟以上、掘立柱建物跡500棟以上、山陰地方特有の形をした四隅突出型墳丘墓などの墳墓34基や、環壕などが確認されている。
平成22年度にはガイダンス施設「弥生の館むきばんだ」が開設され、弥生のくらしをテーマとした展示が行われており、復元された道具などに触れながら楽しく学ぶことができる。また各種体験行事も開催されており、弥生時代の生活を体感することができる。
JR淀江駅より 車5分

7 上淀廃寺跡【国指定史跡】
7世紀末～11世紀初めの寺院跡。発掘調査の結果、金堂跡や塔跡などが確認された。特に金堂跡周辺からは、塑像の破片や法隆寺と並ぶ国内最古級の仏教壁画が多量に発見され、全国的な注目を浴びた。伽藍配置は西に金堂、東に3塔を南北に並べる。金堂、中塔、南塔の基壇は二重につくられ、瓦積の周囲に石列が築かれている。このような方法は三国時代の百済の影響を受けているものと考えられる。考古学、美術史上、極めて重要な発見がなされた史跡である。
JR淀江駅より 徒歩25分

8 向山古墳群【国指定史跡】
小高い丘陵上に前方後円墳、円墳、方墳など14基の古墳があり、山陰屈指の古墳密集地帯。5世紀末から6世紀後半の間に築かれた古墳群で、この地域一帯で勢力のあった有力者の墓と考えられる。中でも、向山4号墳、石馬谷古墳、岩屋古墳は、西伯耆地域における代表的な前方後円墳で、この地域の首長墓の系譜をたどることのできるものである。また、石馬谷古墳から出土したと伝わる石馬（国指定重要文化財）は本州で唯一の出土であり、北九州との交流があったことが考えられる。石馬は現在、天神垣神社境内にある収蔵庫に収蔵されている。
JR淀江駅より 徒歩20分

文化財愛護シンボルマーク

ぶらりとぶり 文化財めぐり Vol.3

【米子市・境港市・日吉津村編】

写真：伯耆古代の丘公園（地図 B）

今回取り上げた米子市周辺は、かつては伯耆国と呼ばれた地域の一部で、伯耆富士と呼ばれる中国地方最高峰の大山の麓に位置しています。

大山の麓には古くから人が住んでいた形跡が多く残っており、その中でも国指定史跡妻木晩田遺跡は152haにも及ぶ国内最大級の弥生時代の集落遺跡であり、鳥取県を代表する史跡として有名です。当時の人々の生活を知るために現在も調査と研究が進められています。また、米子市淀江町には向山古墳群や上淀廃寺跡があり、この周辺は伯耆古代の丘として整備され、古代の世界を体感できる空間となっています。

また、中世においては、尼子氏と毛利氏が領土の拡大のために戦闘を繰り広げた地域であり、近世では米子城を中心に城下町が形成され、商人により商都米子の礎が築かれました。現在も商都として発展を遂げる中で、城下町の名残が随所に残されており、歴史を感じることのできる地域となっています。

鳥取県教育委員会

20 旧加茂川沿いの町並み

旧加茂川は、米子城の外堀として整備され、藩政期には物流の幹線として水運が盛んであった。灘町や内町、立町には後藤家、鹿島家をはじめとする廻船問屋、米問屋などの豪商の屋敷が並びにぎわった。現在でも石垣の上には古い土蔵が並び、運河沿いの独特な歴史的景観が形成されている。

☞JR米子駅よりバス5分 市役所前下車徒歩10分

21 米子城跡【国指定史跡】

米子城の始まりは応仁～文明年間（1467～1487）に遡り、山名宗之により砦として築かれたと伝わる。天正19年（1591）に吉川広家により本格的な平山城として整備された。関ヶ原の合戦後、伯耆国18万石領主として中村一忠が入封され、その後慶長15年（1610）に加藤貞泰が入城する。藩政期においては、鳥取藩主席家老荒尾氏が米子城預りとして代々城主を務めた。

米子城に関連する資料は米子市立山陰歴史館で見ることができる。

☞JR米子駅よりバス10分 医大前下車徒歩5分

15 宗形神社（宗像古墳群）

「延喜式神名帳」に記載され、伯耆五ノ宮とも呼ばれる。北側にある宮谷の本宮から尼子晴久により弘治2年（1556）に今の地に移されたことが古棟札に記されている。藩政期においては、藩主祈願所に定められた。

当神社には吉川元春寄進と伝わる桃形兜1領が所蔵されている。また、裏山には九州地方と形が類似する横穴式石室を持つ宗像古墳群があり、この地域が古くから九州と関わりが深かったことをうかがわせる。☞JR米子駅よりバス10分 宗形下車

16 福市遺跡・青木遺跡【国指定史跡】

福市遺跡は弥生時代から古墳時代の集落跡と墳墓群からなる遺跡。居住域と墓域が明確に区分されており、集落の変遷を考える上で重要な遺跡となっている。また、この南側には縄文時代から平安時代の集落跡と古墳からなる青木遺跡がある。集落跡は福市遺跡と共に山陰地方を代表するもので、 これらの遺跡の出土品は福市考古資料館に保管展示されている。

☞JR米子駅よりバス20分 安養寺入口下車すぐ（福市考古資料館）

10 須山萬（よろず）の墓碑【日吉津村指定史跡】

須山家は数代に渡る藩政期の医家。17歳の時に鳥取藩儒正墻薫（しょうがきかおる）に師事し、その後大坂、江戸に出て名儒学者塩谷宕陰（しおのやとういん）に学んだ。帰藩して周旋方に任ぜられ、勤皇のために奔走した。

幕末騒乱の折に藩命により京都・江戸に赴き、長州・水戸の志士と親交を深め、尊皇攘夷のために働いた。元治元年（1864）に幕府により捕えられ、倒幕計画に関わった罪で伝馬町の獄に投ぜられた。慶応元年（1865）に斬首の刑に処せられ、24歳という短い生涯を閉じた。明治31年（1898）に正五位が贈られている。

☞JR伯耆大山駅より車5分

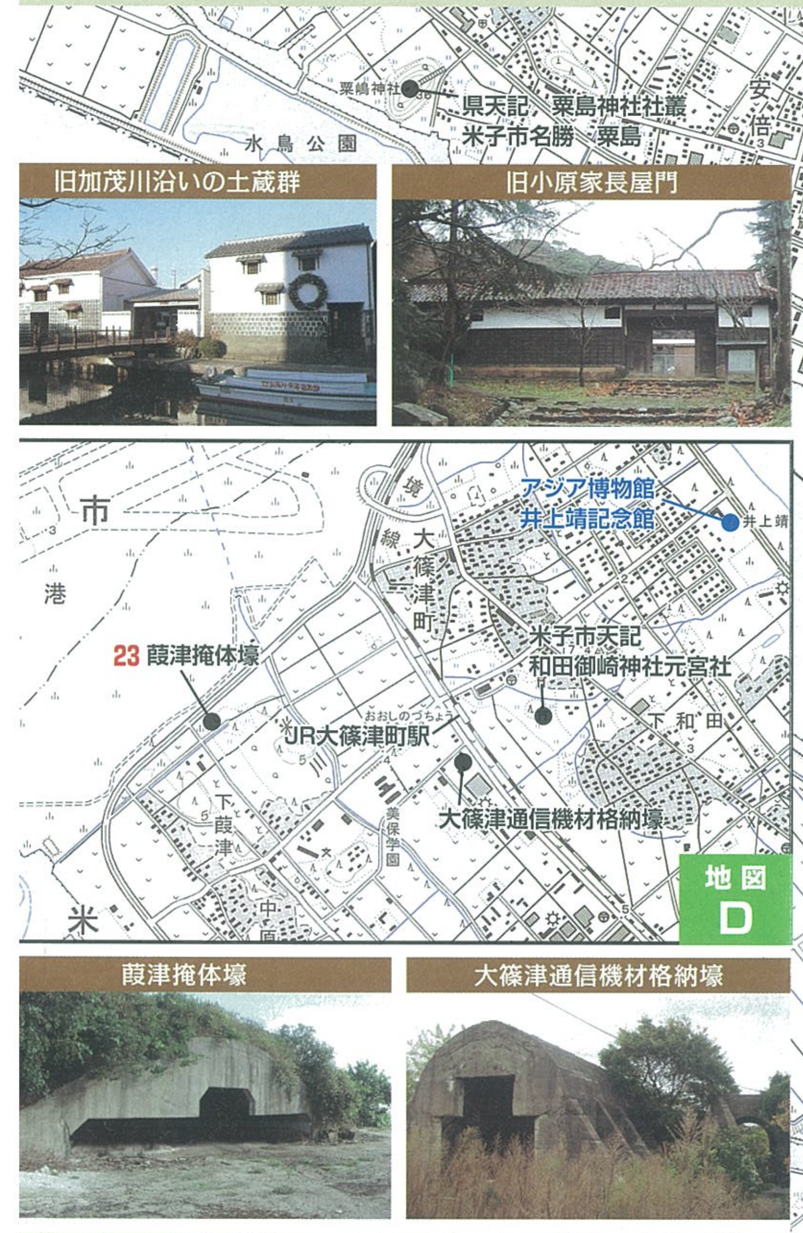
14 安養寺（陵墓参考地）

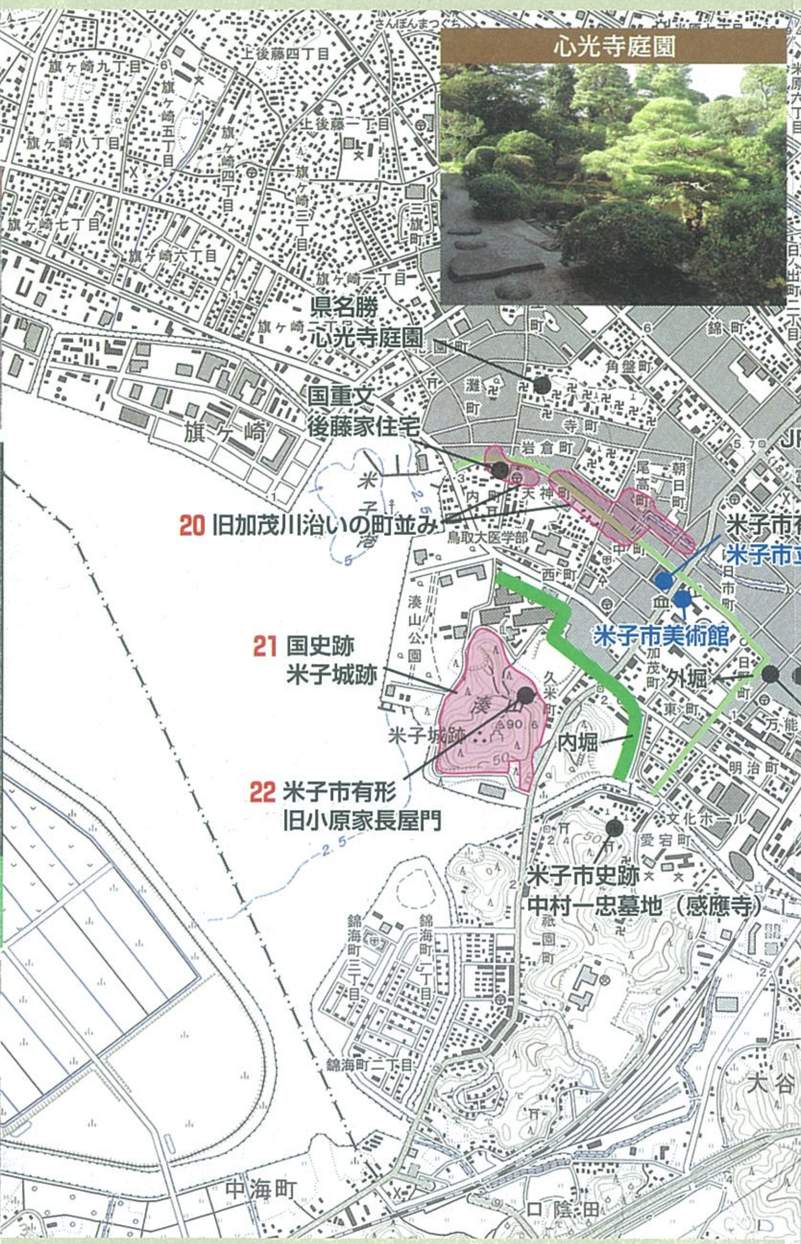
鎌倉幕府を倒し、建武新政を成し遂げた後醍醐天皇の皇女・瓊子内親王の廟所と伝わる。伝説では元弘2年（1332）、幕府により後醍醐天皇が隠岐に流された時に、当時16歳であった皇女は、隠岐に渡ることが許されず、この地で尼となった。皇女は天皇の京都還幸後も伯耆国にとどまり、24歳で生涯を終えたと伝わる。寺宝として、後醍醐天皇の肖像画と瓊子内親王の所持品とされる鏡が所蔵されている。

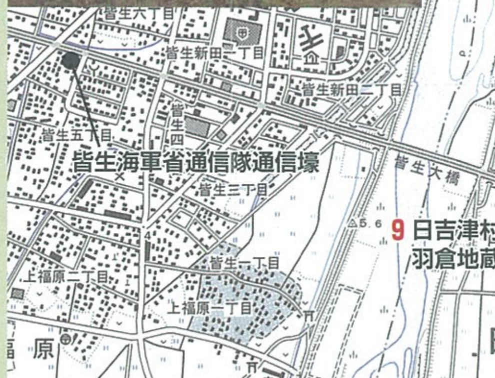
☞JR米子駅よりバス20分 安養寺入口下車

9 羽倉地蔵【日吉津村指定有形文化財】

尼子十勇士の一人である秋上庵介（あきあげいおりのすけ）配下の武将、羽倉孫兵衛元陰の供養塔。孫兵衛は元亀2年（1571）に吉川元春の家臣福頼元秀が守る米子城を攻略した。その後、毛利方である杉原盛重の勢力下にあった日吉津村に侵攻し、杉原配下の吉田元重の軍勢と熾烈な乱戦を繰り広げた末、浜辺に逃れたところを討ち取られた。







22 旧小原家長屋門【米子市指定有形文化財】

米子市内で唯一残されている武家屋敷の建物。小原氏は鳥取藩主席家老の米子城城主荒尾氏の家臣。小原家の屋敷は西町にあったが、昭和28年（1953）に米子市へ寄贈され、長屋門は市により現在地へ移築された。長屋門の規模は桁間20.38m、梁間4.03mで、木造瓦葺平屋建の入母屋造である。入口正面に向かって右に1室、左に2室がある。左奥側の部屋には物置と考えられる屋根裏の中二階がある。窓は出窓となっている。

近世城下町をしのばせる貴重な文化財である。

☞JR米子駅よりバス10分 久米町下車徒歩3分

23 葭津掩体壕

第二次世界大戦中において、米子は大陸に近いということから日本海側の防衛拠点として注目され、米子気象台、航空機乗員養成所等の国の重要施設が整備された。その後、昭和18年（1943）に海軍航空隊美保基地（現在の米子鬼太郎空港）が置かれた。空港脇にある葭津掩体壕は入口が凸字状になっている。その形状から零式艦上戦闘機もしくは大戦末期に爆撃機から迎撃機として転用された彗星を格納するために構築されたものと考えられる。実際には航空機が格納されることなく終戦を迎えている。

市内ではこのほかにも大篠津通信機材格納壕や皆生海軍省通信隊通信壕など19件の戦争遺跡が確認されている。

☞JR大篠津町駅より徒歩10分

17 勝田神社／18 了春寺

勝田神社は加茂神社天満宮（米子市加茂町）等と並び、米子市内で最も古い神社の一つ。主祭神は、農耕、商工業、平安の神である正哉吾勝速日天忍穂耳命（まさかつあかつはやひあまのおしほみみのみこと）を祀る。

地元に伝わる伝承では、元は外江村（境港市）にあったが、米子城初代城主中村一忠の家老横田内善が米子城の鬼門鎮護と勝田庄（米子を含む弓ヶ浜一帯）の総氏神として元勝田へ移し、その後2代城主加藤貞泰により現在地に移されたとされる。

了春寺は、藩政期において鳥取藩主席家老米子城主の荒尾氏の菩提寺として栄えた。もとの境内である勝田山の麓には米子市指定史跡の荒尾家墓所があり、荒尾家歴代の城主の墓碑が整然と並んでいる。荒尾氏の屋敷は鳥取にあり、そこで藩政を司っていたが、死後は米子に帰葬された。

☞JR博労町駅より徒歩3分

19 旧日ノ丸自動車法勝寺鉄道車両フ 50 形フ 50 号附随客車【県指定保護文化財】

法勝寺電車は大正13年（1924）に開業し、米子市と南部町（会見・西伯）を結んだ。この客車は明治20年（1887）英国製で、現存する我が国最古の4輪木製3等客車。明治期の特徴をよく留め、貴重な鉄道遺産として注目される。

☞JR米子駅より徒歩10分（元町サンロード沿い元町パティオ広場に展示）

11 旧日野橋【国登録有形文化財（建造物）】

全長365.8m×幅5.8mの大型鉄橋。昭和2年（1927）6月に起工し、昭和4年（1929）5月に竣工した。設計者は不明。

構造は曲弦式6連ワーレントラス橋で、両端の半円アーチをえぐり抜いた曲線型の橋門構が特徴であり、道路橋、トラス橋として県内最大・最古のもの。これまでに水銀灯の取付けや路面のアスファルト化、塗装替え、手摺の設置などの改修が行われているが、当初の形態をほぼそのまま留めている。

現在は下流側に新日野橋が設置され、歩行者・二輪車専用の橋となっている。

☞JR伯耆大山駅より車5分

12 旧米子市水源地旧ポンプ室他 2 棟【国登録有形文化財（建造物）】

米子市の上水道は大正15年（1926）に開通した。旧ポンプ室は鉄筋コンクリート造、平屋建で、この時に建てられたもの。その東側にある記念碑には当時の内閣総理大臣をはじめ水道事業に携わった人々の名が刻まれている。敷地内には、昭和17年（1942）に建てられた一間社流造の水神社もあり、これらは近代の水道施設を知る上で貴重な文化財である。

☞JR東山公園駅より徒歩20分

13 木造十一面観音坐像（慈眼庵）【県指定保護文化財】

本尊は像高106.1cm、檜材を用いた寄木造りの像である。目には玉眼を嵌入し顔立ちに強い印象を与えている。奥行きがあり、結跏趺坐するその姿は堂々とした存在感をもつ。肉身部の現状は金泥仕上げとなっている。室町時代初期の作と考えられ、県内では当代の仏像は少なく貴重である。

見学については事前に連絡が必要。

☞JR東山公園駅より徒歩30分